

■後援会員が“直撃取材”【サポ☆チョコ】片山瑛一選手編■



■■

『エスパルスニュース』でスタートした、後援会員が選手を“直撃取材”する注目企画。2021年9月号では相良武志さん、野中洋寿さん、野中謙心くんの3名が片山瑛一選手にインタビューを実施しました。誌面未掲載の内容も含め、インタビューの全文をwebでご紹介します！

■■

—《野中さん》 片山選手はいろいろなポジションをこなすことができますが、一番好きなポジションは？

「『ここ』と、はっきり言えるポジションはなくて、周りの選手のタイプを見ながら、お互いをどう活かし合えるかと考えています。例えば、隣にいる選手が周りを使うのが上手いタイプなのか、それとも使われるほうが得意なタイプなのか。なので、『どこが好き』というよりも、どこのポジションも気持ちを切り替えて、好きになれていると思います」

—《相良さん》 試合中にポジションが替わる時は何を意識していますか？

「最終ラインに入る時は、二列目や前線でプレーする時よりも守備の意識をしっかり持つようにしています。やはり、自分一人が抜かれたらすぐ失点に繋がってしまうので。他のポジションはそこまで意識することはなく、自然に切り替えられていると思います」

—《野中謙心くん》 僕は中学1年生です。サッカー部でサイドハーフをやっているのですが、サイドの攻撃で大事なことを教えてください。

「サッカーは相手がいるスポーツだから、相手の気持ちを考えた駆け引きをすることが大事かな。相手が前に出てきたら裏を取る、相手の（身体の）重心が後ろにあるなら自分が前に出る、というように。僕は、攻撃も守備も両方やるようになって駆け引きの大切さがより理解できるようになりました。最初はなかなか難しいと思うし、頭が混乱しちゃうかもしれないけど、だんだん慣れて相手の逆を突けるようになったら、攻撃がもっと楽しくなるよ！」



—《謙心くん》 片山選手は子どもの頃、どんな練習をしていましたか？

「僕は中学、高校とサッカーの強豪校に通っていたわけではないので、効率的だったかどうかは分からないけど、時間があればボールを触って、友達とたくさんサッカーをしていました。ドリブルでも、シュートでも、キックでも、自分の長所だと思えるところを楽しみながら伸ばしていくことが大事かな。練習がキツイと感じる時もあると思うけど、いかにポジティブに練習に取り組むか。そうやって僕自身は伸びたと思っています」

—《相良さん》 高校生の娘がいるのですが、勉強と部活の両立が上手くいきません。片山選手はどう両立させていましたか？

「正直、僕も勉強は極力やりたくないスタンスだったし、やっぱりサッカーをしている方が

楽しかったから、両立できていた自信はあまりないです（苦笑）。ただ、だからこそ勉強に割く時間をいかに減らすかってことを考えていました。勉強は短い時間でパッと終わらせて、残りの時間は好きなだけサッカーをして… って感じで、うま〜くやり過ごして（笑）。でも、勉強も『分かる』っていう感覚を重ねられると楽しいですね。そこから『他にももっと分かるようになりたい』って興味が広がっていくので。最初は地道ですけど、『分かる』を積み重ねていくことが、苦にはならない一番の勉強法かなと思います」

—《編集部》 勉強に関して、子どもの頃にもっと「これをやっておけば良かった」と思うことはありますか？

「今一番思うのは、英語をもっと勉強しておけば良かったなって。僕の場合、受験のための勉強になってしまっていた部分があるので、日常会話だったり、チームメイトとのコミュニケーションなどで実際に使える英語を身につけられるよう、もっと意識して頑張っておけば良かったと思うことはあります」



—《野中さん》 エスパルスの中で一番仲の良い選手は誰ですか？

「僕は結構みんなと満遍なく仲良くしてると思っているんですけど、特に河井（陽介）くんに対して、一方的に話しかけに行くことが多いですかね。河井くんは『イジられるのが嫌い』って言ってますけど、実はそんなに嫌がってないと思う（笑）。あと、（中村）慶太はすごく明るくて誰とでも仲が良いので、話すことが多いです」

—《編集部》 最近のチーム内の雰囲気はどう感じていますか？

「練習中はすごく緊張感を持ってできています。監督やコーチたちがスカウティングを含め試合に向けた準備を入念にしてくれるので、僕たち選手はそれを実際に試合に活かせるよう、良い緊張感を持って取り組んでいます」



— 《相良さん》 片山選手が尊敬している選手はいますか？

「僕は、小さい頃から『この選手みたいになりたい！』と思う人があまりいなかったんですけど、岡山でチームメイトだった岩政大樹さんにはすごく影響を受けました。岩政さんと出会ったのが、僕がフォワードから後ろのポジションに移ったタイミング。守備のことが何もわからない時、岩政さんのおかげで頭の中が整理でき、サッカーの見方も変わりました。すごく良い出会いの一つでした」

— 《相良さん》 片山選手が一番「やりづらいな」と感じる対戦チームは？

「うーん… 難しい質問ですね (笑)。『やりづらさ』にもいろいろあると思うんですけど、僕の場合、古巣の C 大阪は、自分の特徴を知られているという意味でやりづらいと感じます。ただ、逆に僕も C 大阪の選手たちのことは知っていますし、対戦するのが楽しみなチームでもあります」

— 《相良さん》 アイスタで入場時に流れる『雷神』という曲は選手の皆さんも聴くと気分が高まりますか？

「スイッチが入って、『よし、やるぞ！』と身が引き締まります。その曲だけでなく、サンバのリズムの応援も、スタジアム全体の良い雰囲気をつくってくれていますし、闘争心を

持って試合に入れるなど感じています」



—《相良さん》 エスパルスの応援で気に入っているものはありますか？

「曲名は分からないんですが、最初の太鼓の音が『ジャンジャンジャン、ジャ、ジャンジャンジャン』っていう曲…今ちょっと口ずさんだんですけど、伝わりますか？（笑）。あのリズムカルな音が結構好きで、試合中もリズムに乗れる感じがします。今は声を出しての応援ができない時期ですが、規制が緩和されたらスタジアムの熱量がグッと上がると思うので、緩和されたらまた熱い応援をよろしくお願いします！」

—《編集部》 片山選手は試合前に気持ちを高ぶらせますか？ それとも落ち着けますか？

「あまり表情には出さないようにしているので、落ち着いているように見えていると思いますが…実は結構、高めたいなと思っているタイプです（笑）」

—《相良さん》 すごく落ち着いているイメージでした！

「試合中も怒ったり、イライラしたりすることはありますが、それを外に出して不利に働いてしまったら嫌なので、表に出さないように意識しています」

—《編集部》 感情を表に出さないコツは？

「例えばちょっとイライラすることがあったとしても、そこで何かに当たったり、引きずったりしてもしょうがないので、もう、『次！ 次！』って切り替えることを大事にしています。どうしても我慢できない時も、感情をそのまま出すのではなく、しっかりコミュニケー

ションを取るよう心掛けています」

—《謙心くん》 僕は試合になると楽しくて気持ちが高ぶってしまうので、参考になります。「タイプによるだろうから、表に出さないことが正解ってわけじゃないよ。実際、感情を表に出すことが長所になっている選手もたくさんいるし、それも良いと思う。僕の場合は、性格的に出さない方が良いというか、淡々とやることで今まで上手くできてきたと思っています。だから、自分に合った方法を見つけてみてね！」

—《野中さん》 今シーズンの個人的な目標はありますか？

「結果に直接反映するプレーをしたいと思って試合に臨んでいます。前目のポジションなら得点やアシスト、守備的ならゴールを守る。その回数や質を求めて取り組んでいきたいです」



—《編集部》 後援会員の皆さんから片山選手にエールを。

—《相良さん》 今シーズンの前半戦で片山選手が離脱していた時期、少しチームが落ち込んでしまったと思うのですが、片山選手が復帰してから調子が上向いたと感じています。このままケガなく出続けていただき、少しでも上の順位にいけるよう頑張ってください。応援しています！

—《野中さん》 先日の横浜 FM 戦（8月9日）も家族で観戦に行き、やっぱりエスパルスが元気よく戦っている姿に励まされるなど感じました。勝った試合の後は家の中がお祭り騒ぎになりますし、エスパルスは生活の一部のような存在です。選手の皆さんが楽しんで勝つ姿を見たいですし、そのために我々もできるだけスタジアムに足を運んで応援します！

—《謙心くん》 下位で終わりたくないなので、残りは全勝するという気持ちで戦ってほしいです。どこのチームにもゴールを決められるよう頑張ってください！

—《編集部》 最後に、片山選手から後援会員の皆さんへメッセージを。

「熱い応援、ありがとうございます！ 普段、なかなかこういうふうに直接コミュニケーションを取ることにはできないですけど、いつも試合に向かうバスの中からファン・サポーターの方々を見て、『今日もたくさん集まってくれてるな』『一緒に戦ってくれているな』という気持ちで臨むことができます。残りの試合は一つでも多く勝ち、みんなで喜び合って、皆さんに笑顔でスタジアムから帰ってもらえるように選手・スタッフ、チーム一丸となって、何としても勝てるように戦っていくので、引き続き応援をよろしくお願いします！」